

第 36 回神奈川産婦人科内視鏡研究会 抄録集

①腹腔鏡下子宮筋腫核出術における新型モルセレーターの使用経験

【演者】

横浜総合病院 産婦人科

芥川秀之 木林潤一郎 荏部瑞穂 美濃部奈美子 吉田典夫

【抄録】

平成 26 年 4 月 17 日、腹腔鏡下子宮摘出術および子宮筋腫核出術に用いる腹腔鏡用電動式モルセレーターを用いた細切除去術に関して、米国食品医薬品局 (FDA) から安全性についての勧告があった。

我が国においても多くの施設でその対応に苦慮している現状がある。当院においては、日本産科婦人科学会からの通知を遵守し、症例を適切にスクリーニングしており、モルセレーターを使用する可能性がある場合は、使用によるリスク（診断不可能な悪性病変のリスク、および悪性組織の腹腔内播種のリスク）についてインフォームドコンセントを得ることで慎重に対応している。

FDA の勧告により、当院で使用してきた Johnson&Johnson 製モルセレーター（GYNECARE ラパロ用モルセレーター〇R）の販売が中止となったが、今回、KARL STORZ 社製の新型モルセレーター（SAWALHE II スーパーカットモルセレーター〇R）が発売され、使用したのでその経験について発表を行う。

②腹腔鏡手術で治療した卵管間質部妊娠の 1 例

【演者】

昭和大学藤が丘病院 産婦人科

市原三義、田内麻依子、中林誠、竹中慎、松浦玲、中山健、青木弘子、横川香、本間進、佐々木康、小川公一

【抄録】

【はじめに】卵管間質部妊娠は、稀な疾患であり、死亡率は 2.5% と他の異所性妊娠と比較して高い。今回、卵管間質部妊娠を腹腔鏡下で治療した症例を経験したので報告する。【症例】29 歳、1 回妊娠、骨盤位で選択的帝王切開術を受けている。主訴：最終月経後無月経。現病歴：前医に無月経を主訴に妊娠 6 週に受診した。妊娠 10 週 1 日に、超音波検査で胎嚢像が子宮右側に描出された。MRI 検査で間質部に 5cm 大の胎嚢像を認め、当院に同日紹介となった。内診で、子宮底部右に腫瘤の触知あり、性器出血はなかった。経膣および経腹超音波検査では、右卵管間質部に胎嚢像あり、CRL 1.46mm (8 週 2 日相当) で胎児心拍は認めな

かった。血中 hCG 30534mIU/ml であった。右卵管間質部妊娠の診断で腹腔鏡手術の治療方針とした。腹腔鏡所見では、腹腔内出血なし、附属器周囲に軽度癒着を認めた。右卵管間質部は著明に膨隆し菲薄化あり、同部位を Cornual resection (卵管角切除) とした。術後経過は順調で退院となっている。【結語】 卵管間質部妊娠を術前診断することができ腹腔鏡下に治療が可能であった。

③Wunderlich 症候群と診断し腹腔鏡補助下に腔開窓術を施行した 1 例

【演者】

関東労災病院 産婦人科

藤川朋奈 袖本武男 北麻里子 西田晴香 松村慶子 根井朝美 星野寛美 香川秀之

【抄録】

Wunderlich 症候群は重複子宮・片側子宮腔部の閉鎖・同側腎無形成を伴う症候群である。腔部閉鎖側の子宮の妊孕性は比較的保たれているとされ、診断的腹腔鏡及び腔開窓術が最適な治療と考えられている。今回術前に Wunderlich 症候群と診断し腹腔鏡補助下に腔開窓術を施行した 1 例を経験したので報告する。

患者は 23 歳未婚。22 歳時月経痛を主訴に前医を受診し、子宮奇形と診断されたが経過観察となっていた。月経痛増悪のため当院救急を受診した。CT で右腎無形成、右子宮と左子宮の交通性なく右子宮は盲端に終わっており、Wunderlich 症候群と診断された。経腔的子宮留血症ドレナージ術を施行後に LEP・鎮痛剤による疼痛管理を試みたが、コントロール不良であった。このため初診から 2 か月目に腹腔鏡を併用した手術を行う方針とした。手術所見では右腔腔及び子宮腔部の同定が出来ず、腔壁の開放は腔式操作のみでは困難であったため、腹腔鏡下に子宮に切開を加えて腔式操作をガイドした。開放した腔腔の閉鎖を防ぐ目的に術後 2 週目までカテーテルを留置した。術後経過に異常は認めなかった。その後の月経時に軽度の子宮内留血腫は認めるものの、月経痛は軽快した。術後 8 カ月目の現在も外来管理可能な状態である。